

JST 理事長 記者説明会

令和4年 2月 15日



科学技術振興機構

第3回輝く女性研究者賞 (ジュン アシダ賞)

受賞記念講演会



科学技術振興機構

第3回輝く女性研究者賞(ジュン アシダ賞) 受賞記念講演会

1. 企画趣旨 講演会を開催することにより、受賞者を広く周知し、本受賞を機に世界レベルの研究者としてより活躍する一助とする。また、パネル討論を通じて、受賞までの道のりなどをわかりやすく伝えていただくことにより、後進の方々に向けたロールモデルを示す。
2. 企画対象 あらゆる分野の科学者・研究者、一般の方
3. 企画概要 **開催日時** : 令和4年3月10日(木) 13:00~15:00
会場 : JST東京本部にて当日収録、Zoom Webinarで同時配信
主催 : 国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)

*最新情報はJSTダイバーシティ推進室ホームページに随時掲載 :

<https://www.jst.go.jp/diversity/index.html>

<受賞記念講演会>

- 13:00 開会挨拶 濱口 道成(科学技術振興機構 理事長)
- 13:05 選考委員長が振り返る女性研究者賞(ジュン アシダ賞)の歩み
鳥居 啓子(テキサス大学オースティン校Johnson and Johnson Centennial 冠教授/ハワードヒューズ医学研究所正研究員)
- 13:15 講演 佐々田 槿子(東京大学 大学院数理科学研究科 准教授)(30分)
- 13:45 講演 飯間 麻美(京都大学医学部附属病院 先端医療研究開発機構・放射線診断科 助教)(15分)
- 14:00 講演 神谷 真子(東京大学 大学院医学系研究科 准教授)(15分)
- 14:15 パネル討論 佐々田 槿子氏、飯間 麻美氏、神谷 真子氏、濱口理事長、渡辺副理事(40分)
- 14:55 閉会挨拶 塩崎 正晴(科学技術振興機構 理事)

【参考】第3回輝く女性研究者賞(ジュン アシダ賞) 受賞者

佐々田 槇子(ささだ まきこ)

東京大学 大学院数理科学研究科 准教授

専門分野 : 数理科学(確率論)



■ 受賞理由

- 一見統計物理や確率論と無関係の代数学や幾何学理論を用い、原子や分子などで構成される系が従うミクロ法則から温度や密度など系のマクロな振る舞いを説明する、新しい理論の構築を行っている。
- 研究以外の社会貢献においても、ホームページ「数理女子」の開設や確率論の動画公開、講演会などのアウトリーチ活動を積極的に行っている。また、国際数学連合のCWM(Committee for Women in Mathematics)のアンバサダーを務めるなど、数理科学分野の女性の育成に尽力している。

■ プロフィール

- 主な経歴
 - ・2011年 慶應義塾大学 工学部 数理科学科 助教
 - ・2014年 慶應義塾大学 工学部 数理科学科 専任講師
 - ・2015年 東京大学 大学院数理科学研究科 准教授
- 主な受賞歴
 - ・2009年、2011年 東京大学大学院数理科学研究科 数理科学研究科長賞
 - ・2010年 日本数学会賞建部賢弘奨励賞
 - ・2011年 日本学術振興会 育志賞
 - ・2011年 東京大学総長大賞
 - ・2012年 ESF-JSPS日本-欧州先端科学セミナー-Excellent Presentation Award

【参考】第3回輝く女性研究者賞(科学技術振興機構理事長賞) 受賞者

飯間 麻美(いいま まみ) 専門分野 : 生命科学／放射線科学



京都大学医学部附属病院 先端医療研究開発機構・放射線診断科 助教

■ 受賞理由

- ▶ 造影剤を使用しない非侵襲的な拡散強調MRIを用いて、組織の微小灌流を評価できる定量値 (IVIM) を始めとするさまざまな画像の情報を新たに抽出して活用することにより、身体に負担の少ない安全で新たながんの画像診断法を開発した。治療法の選択や治療効果、予後の予測に役立てることを目指し、臨床と基礎をつなぐ研究者としての活躍が目覚ましい。
- ▶ 研究以外の社会貢献においても、関連分野の国際ワーキンググループ創設など世界へ向け発信するとともに、国内外の研究者の交流活動の促進や後進の育成にも力を注いでいる。

神谷 真子(かみや まこ) 専門分野 : 生物有機化学



東京大学 大学院医学系研究科 准教授

■ 受賞理由

- ▶ 化学に基づく独自の分子設計法により、有機色素を論理的に機能化し、画期的なイメージングを実現し得る蛍光プローブとラマンプローブの開発を行っている。近年では多数の標的分子を同時検出できるラマンイメージングのプローブを開発するなど、独創性が高い研究を行っている。
- ▶ 研究以外の社会貢献においても、後進の育成に積極的に取り組むとともに、一般に向けて科学の面白さを伝える活動などにも力を入れている。

次世代人材育成事業の 令和4年度募集について



科学技術振興機構

次世代人材育成事業の令和4年度募集について

大学等と連携した科学技術人材育成活動の実践・環境整備を支援する3つのプログラムにつき、令和4年度の実施機関を募集中。

グローバルサイエンスキャンパス(支援期間:最大4年)

将来グローバルに活躍し得る次世代の傑出した科学技術人材の育成を目的とし、地域で卓越した意欲・能力を有する高校生などを募集・選抜し、国際的な活動を含む高度で体系的な育成プログラムの実施を支援

支援金額上限：3,000万円／年 採択予定件数：4件程

募集締切：3月8日(火)正午

受講生たちが日頃の研究成果を発信する場として、全国受講生研究発表会を毎年開催している。令和3年度は鳥取県大山町におけるジョウビタキの繁殖生態の解明に取り組む楠(くすのき)ゆずはさんが文部科学大臣賞を受賞した。



次世代人材育成事業の令和4年度募集について

ジュニアドクター育成塾(支援期間:最大5年)

将来の科学技術イノベーションをけん引する傑出した人材の育成に向けて、高い意欲や突出した能力を持つ小中学生を発掘し、さらに能力を伸長させる体系的な取り組みを支援

支援金額上限:1,000万円/年 採択予定件数:10件程 募集締切:3月10日(木)正午

女子中高生の理系進路選択支援プログラム(支援期間:最大2年)

女子中高生の理工系分野に対する興味・関心を高めるとともに、教員および保護者などを含め理工系分野への進路選択に関する理解を促進し、文理選択や将来の進路に迷っている女子中高生を継続的に支援する体制構築を推進

支援金額上限:300万円/年 採択予定件数:10~15件程 募集締切:2月25日(金)正午



本日の登壇者



中山 一郎

●中山 一郎（国立研究開発法人 水産研究・教育機構 理事長／
東京大学生産技術研究所 リサーチフェロー）

・JST 未来社会創造事業「持続可能な社会の実現」領域 本格研究
「日本型持続可能な次世代養殖システムの開発」研究開発代表者

学 歴：1984年3月北海道大学 水産学部水産増殖学科卒業 水産学士、1987年3月北海道大学
大学院環境科学研究科社会環境学専攻修士課程（環境医学）修了 学術修士、1991年12月パリ
第六大学（ピエール・エ・マリー キューリー大学）博士号取得（Docteur de l'Université
Paris VI）

職 歴：1994年4月 水産庁 選考採用 水産庁養殖研究所 遺伝育種部

1998年10月 水産庁 養殖研究所 企画連絡室 研究交流科長

2001年1月 内閣府 政策統括官付参事官補佐（総合科学技術会議事務局）

2003年4月 （独）水産総合研究センター中央水産研究所 水産遺伝子解析センター長

2011年4月 水産庁 増殖推進部 参事官

2015年4月 国立研究開発法人 水産総合研究センター 中央水産研究所長

2016年4月 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 中央水産研究所長

2018年3月 中央水産研究所長 定年退職

2018年4月 日本水産株式会社 中央研究所 養殖R&Dアドバイザー

2021年4月 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 理事長 現在に至る